pH 測定①▶▶

材料・器具：pH メーター・洗瓶入り蒸留水・データシート

※本マニュアルでは、HORIBA社製のpHメーター〈B-212〉を例に説明します。

HORIBA社製B-212

校正を行う

pH測定前に、製品の取扱説明書に沿って器具の校正を行う。
必ず２点校正を行う。

［説明書抜粋］

● pH7　1 点校正

❶ ON/OFF スイッチを押します。
自動的に測定モードになります。

❷ センサガードを開いてセンサの A〜B 間を覆うように標準液 pH7 を滴下します。
（このとき，標準液 pH7 の測定値を記録しておくとセンサの経時変化の程度がわかります。）

❸ CAL スイッチを押して CAL マーク，pH6.86 を表示させます。
（表示値は温度により変化します。
例：25℃の場合
6.86 を表示）

6.86 CAL

❹ CAL マークが消え，測定モードになり pH6.9前後を表示すれば pH7 の校正は完了です。
水道水などでセンサを洗浄し，水滴を取り除きます。

※ CAL マークが点滅したときは，校正できていません。標準液を確認のうえ，もう一度校正してください。

● pH7 と pH4 の 2 点校正（2 点校正ができるのは，B-212 のみです。）

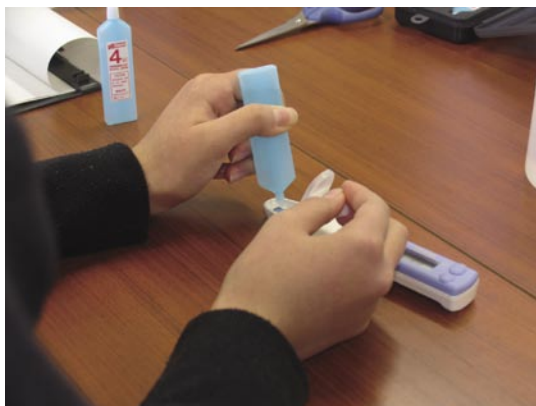
より高精度な測定を行うために pH7 と pH4 の 2 点校正をおすすめします。
pH4 の校正は「（1 標準液校正）・pH7 1 点校正」を行ってから以下の手順で行ってください。

❶ センサの A〜B 間を覆うように標準液 pH4 を滴下します。
（このとき，標準液pH4 の測定値を記録しておくとセンサの感度変化の程度がわかります。）

B
A

❷ CAL スイッチを押し続けて CAL マーク，pH4.01 を表示させます。
（表示値は温度により変化します。
例：25℃の場合
4.01 を表示）

❸ CAL マークが消え，測定モードになり pH4.0前後を表示すれば pH4 の校正は完了です。
水道水などでセンサを洗浄し，水滴を取り除きます。

※ CAL マークが点滅したときは，校正できていません。標準液を確認のうえ，もう一度校正してください。

出典：
HORIBA
コンパクト pH メーター〈Twin pH〉B-212
取扱説明書

pH 測定②▶▶

材料・器具：pH メーター・洗瓶入り蒸留水・データシート

測定する

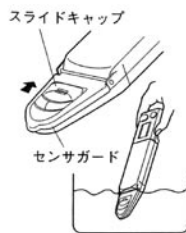
校正後、センサーをよく洗う。
その後、器具の説明書に沿って測定を行う。

[説明書抜粋]

●浸せき測定

❶ センサガードのスライドキャップを開いてセンサをサンプルに浸せきし 2〜3 度軽く振ります。

❷ 安定マーク☺が点灯すれば数値を読み取ってください。

❸ 測定終了後はサンプルを捨てて，水道水などでセンサを洗浄し，水滴を取り除いてください。

ご注意
センサを振り続けたり，サンプルの対流が激しい時など、数値が安定しない場合があります。安定しない場合は，平面測定またはすくい取り測定を行なってください。

●平面測定

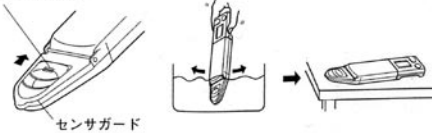
❶ センサガードを開いてセンサの A〜B 間を覆うようにサンプルを滴下します。

❷ 安定マーク☺が点灯すれば数値を読み取ってください。

ご注意
センサ B 部にスポイトが触れないようにご注意ください。

❸ 測定終了後はサンプルを捨てて，水道水などでセンサを洗浄し，水滴を取り除いてください。

●すくい取り測定

❶ センサガードのスライドキャップを開いてセンサをサンプルに浸せきし，2〜3 度振ったのちサンプルをすくい取り，机上等に置きます。この時、センサのA〜B間を覆うようにサンプルがたまっていることを確認してください。

❷ 安定マーク☺が点灯すれば数値を読み取ってください。

❸ 測定終了後はサンプルを捨てて，水道水などでセンサを洗浄し，水滴を取り除いてください。

ご注意
本計器は防水構造となっていますが，本体全体を水中に没したままでの測定は避けてください。
誤って水中に落とした場合，すみやかに水中から取り出し，水を拭き取ってください。

3 測定が終了したら

❶ ON/OFF スイッチを押して電源を切ります。
❷ 水道水などでセンサを洗浄し，ティッシュペーパーなどで注意しながらセンサ部および本体部の水滴をふきとります。
❸ センサガードのスライドキャップを閉じて保管します。（液に浸したままの状態で保管はしないでください。）

出典：
HORIBA
コンパクト pH メーター〈Twin pH〉B-212
取扱説明書

記入する

データを読み取り、データシートに記録する。３度計測し、平均値も出す。

⇨グローブデータサーバーに送信！